

# ねっとわあく

## 特集

# 転機 「転機」はチャンスですか？ ～迷っても流されない生き方を～

漫画家  
榎村さとるさん ..... P2



経験と時が満ちれば変われる

竹炭製作者  
金丸正江さん ..... P8



自然の中に飛び込んで  
新しい自分を発見

スイートハート  
海野秀子さん ..... P4



この手で転機を好機に変えるとき

三笠運輸株式会社 ..... P6



企業が「女性を本気で  
活用しよう」と踏み出すとき



男子厨房に入る  
..... P10  
静岡市 森廣良さん

人生の転機!あなたはどうかとらえていく? P 9  
語ってねっ! いいオトコになろう! ..... P12  
平成12年度女性の国際研修レポート..... P13  
男女共同参画へのあゆみ ..... P14  
募集&プレゼント ..... P15  
編集員うら話

## 転機

「転機」はチャンスですか？  
 ↳迷っても流されない生き方を

結婚、離婚、出産、転職、転勤——人生という大航海に押し寄せるさまざまな転機をどう受け止めるかによって、後の生き方が大きく変わることがあります。より前向きに自分らしく生きるための道を探ります。

## 経験と時が満ちれば変われる

漫画家

榎村さとるさん

人生の転機に立ったとき、どの道を選べば幸せになれるのか……人は悩み、惑います。また、進むことができず、引き返してしまうこともあります。先が見えないけど、前に進む勇氣は、どうしたら出てくるのでしょうか。浮き沈みの激しいと言われる少女漫画の世界で27年間、第一線で活躍されてきた榎村さとるさんを訪ねました。

### 漫画家としての岐路

作品を拝読すると初期から中期、現在と登場人物の性格やストーリーも常に読者の心をつかみながら変化しているように思えます。何かきっかけがあるのでしょうか。

30代になる少し前から、作品と自分のギャップを感じるようになりました。自分自身は大人になってきているのに、仕事としては22歳までがターゲットの雑誌に描いていたので、子どもの感覚で考えないと読者が離れていってしまう現実。ちょうどこのころ、自分の中の子どものっぽい自己顕示欲

や、臆病さから脱皮したくて、苦しんでいたし、同時に読者の気持ちも掴めなくなっていた、その時期が一番辛かったですね。漫画家としては、二つの選択肢があって、一つは、子どものままでいること、これは、少女漫画の世界では許されるんです。それに、子どもでいることの方が楽です。もう一つは、普通の大人になること。私は、大人になりました。そして、もうお先真っ暗だったけど、描くことはやめなかったですね。「それでも、描きたい！」と思ったことが新たなスタートだったかな。

愛憎、死、セックスというテーマは、少女漫画では、消化しきれなかったんです。それなら、当たるかどうかは分からないけど、お引越してみようと、「お姉さん雑誌」に移動しました。これは、仕事では大きな転機でしたね。

「転機」をどのようなものだとお考えですか。

変化って突然に見えるけど、違いますね。読者から「榎村さんに背中を押してもらいました」という投書をもらうけど、私は決



### プロフィール

榎村さとる 漫画家

1973年に「白い追憶」(マーガレット4月号)でデビューして以来、常に読者からの支持を受け、第一線で活躍している。

1993年からヤングユーに長期連載された「おいしい関係」、1995年からコーラスで連載された「イマジ」はテレビドラマ化され、活躍の範囲を広げている。

作品の登場人物の「逆境に屈しない前向きでひたむきな姿」を通して、読者に仕事や恋愛などについて自立した女性をイメージさせ、元気と勇気を読者に与え続けている。



して押しでないんです。コップの水が最後の一滴でツーンとあふれ出るように、自分の中に体験や挫折や、こうなりたいたいという思いなどを貯めているから、ある日変われる。だから、やりたいことをしっかりと持ちこたえて考えていないと、チャンスがきても気がつかないし、選べないよね。

## 穴に落ちてみる

榎村さんの作品では、傷ついたり、ショックを受けた人間が、止まってしまっ、その後「恐いけど一歩踏み出すときの表現」

## 「おいしい関係」

全16巻  
ヤングユーコミックス  
集英社

父をなくし、生活のためにレストランで働き、後にシェフを目指す主人公が様々



な人々との触れ合いにより、とまどい悩みながら、自分がどんな仕事をしたいのかを模索しつつ、人間としても成長していく様を描く。

に、すごく説得力があります。あんなにすやかに強く再生していけるのではなぜでしょうか。

そこを描くのが一番好きなんです。ファンから「これ以上、可奈子さんをいじめないでください！」などと言われますが、私は脱出する手段を知っているし、人のせいではなく自分の問題として考えさせるから、落ちるとこまでガーンと落とします。底につかないと、上がってもこれせんから。

これは経験からなんですが、自分の心の穴には、いやーな部分が入っていて、大抵の人は落ちこちたくなーって、途中で踏ん張ったりしちゃうの。そんな、余計な力を使っで、エイっって一度落ちてみて、触って確かめてくるといいのよ。ああ、私ってこんな人間なんだって、悪意もさちんと見つめる。

穴だらけだけど、この穴はよく落ちる穴、あの穴はこんな形って、分かっている人の方が自分をコントロールできるし、恐がることもなくなる。そういう「落ちる力」も必要なんだと思う。

それから、私は自分の引き出しに限界があると思う。周りの人も引っぱり込んで感受性を広げている。作品でも一人で落ちることさなで誰かいる。健やか

## 「イマジジン」

全11巻  
ヤングユーコミックス  
集英社

主人公は人に一歩譲ってしまつタイプのOL。母は一級建築士で会



社社長。この二人の関係を軸に、仕事の人間関係、恋などをとおし、主人公が本当の自分の気持ちに気づき、生き方を探していく様を描く。

な人。「おいしい関係」でも可奈子さんには百恵ちゃん。

## 自己肯定感を持つことが 幸せの第一歩

「落ちる勇氣のいる」ように思えますが。

自分の悪感情も排除しないで、いい面と悪い面を両方受け入れて初めて、本当に自分が好きになれるし、他の人にも好きになつてもらえますよね。私は、この自己肯定感をもてたときに、新しい誕生だったし、楽にもなれました。30代も半ばだったけど。

今後の作品については、これまでは一芸に秀でていて、引きこもりがちなキャラクターを描いてきたので、これからは、大事な関係におけるコミュニケーションのとり方を描きたいですね。具体的には、相手が機嫌が悪いときにどう声をかけたらいいかなどです。漫画だとそれが表現できるから。

21世紀を生きる人にメッセージをお願いします。

男とか女だとかいつる時代じゃないですよ。それより、個として生きていけばいいし、いらぬものを削ぎ落としていけば、もつと楽になれるはず。

皆さん、節目に踊らされず、正気を保って生きましよう！

\*1 可奈子

作品「おいしい関係」の登場人物。複雑な家庭環境に生まれ、自分に向けられた「人の感情」を素直に受取ることができず、心に不安定さを抱える人物として描かれる。

\*2 百恵

作品「おいしい関係」の登場人物。両親の愛情を注がれて育ち「人の好意」や「人の底力」を信じる人物として描かれる。

この手で

転機を好機に変えるとき

静岡市

うんのひでこ  
海野秀子さん



誰にでも起こりうる人生の転機を、絶好のチャンスととらえて自分を高めていくことは、はたして可能なのでしょうか。その先に新しい世界をひらくために必要なものは何か、海野さんに聞きました。

転機、そして自分の意志で独立へ

表通りから少し入った細い路地に、海野さんの経営するセレクトショップ「スイート・ハート」があります。「自分の店を持ちたい」という強い思いから出発して4年。ニューヨークから独自のセンスで仕入れた洋服・アクセサリー・雑貨が並ぶ店に、今では多くの固定ファンが訪れます。

ニューヨークと静岡、そして東京を行き来する海野さんにも、これまで転機といえる時期がありました。まず離婚。そして買い付けの仕事との出会いです。

高校時代1年間アメリカに留学し、短大の途中で結婚・渡米。しかし3年後離婚し、とりあえず生活のために働き始めます。「自分が何をしたいのか分からないまま」銀行や証券会社での勤務を経て百貨店に就職。そこで初めて商品をコーディネートして店に卸す買い付けの仕事を手がけることになりました。もともとインテリアに興味があったため、買い付けの仕事全般を知ろうと小さな会社に転職しますが、クライアントの担当者が変わるだけで取り引きまでなくなってしまうなど、相手任せの立場では自分のやりたいことが思うようにできないと痛感。一念発起、自分の店を持つと決心します。

相手任せではなく自分のための転機

こうした転機を、海野さんは決して後ろ向きではなく、つねに前向きにとらえてきました。例えば離婚にしても、今思えば、20代の早い時期でよかったと話します。

当時、蓄えどころか当面の生活費もない状態。そんな中で、経済的に安定していないと心まで不安定になり、自分自身が幸せを感じていないといい仕事ができないと気が付きます。もちろん金銭面でも相手任せではベストにはなり得ません。

そして、その時期を乗り越えたからこそ、これから予期しないことがあっても、「な

んとかやっつけていけるという自信に結びついていった」と言います。

「店を持つときも不安はありません。でもすべての条件が整ってからの…なんて完璧な時を待っていたら、きつといつまでたっても何もできない。とりあえず始めてみて、足りない部分はあとで変えていけばいい、と考えたんです。せっかくの自分の人生なんだから、やらないで後悔するより、やってみてダメだったら次のことを考えるほうがずっといい」

## 目標を掲げポジティブに

海野さんは常に、いいことを考えようと心がけています。こうなったらいいな、次はこうしたい、ということを具体的に考え、それを意識して周囲の人にどんどん話すのです。そうすると不思議と人の輪が広がり、「こういう人がいるよ」「ここを紹介してあげる」と話が進むこともしばしば。自身の決心にもなり、さらにいつまでに、と自分で期限を決めることで、夢を現実近づけることができます。

昨年、東京に姉妹店を出店したのも、30代のうちに東京に店を出したいと目標を持っていったから。このときも周囲から危ぶむ声が上がったそうですが、現に多くの人が店を出している、だったら私にできない理由はないんじゃないか——と、持ち前の前向きさで決断。今では雑誌にも取り上げられるようになっていきます。

朝起きたら自分に向かって「大丈夫、な

んとかなる」と言いきかせているという海野さん。次の目標は、40歳までに今の店をビルにすることです。

「一つ目標を決めると、それまでにやることが見えてくる。そして、そこでもまた新しい出会いがあるかもしれない。そういう出会いを大切にして、夢を実現していきたいですね」

自分は幸せか、それは本当に自分のやりたいことか、そして真剣にそれを願っているか。常に自分自身の気持ちと向きあう海野さんの眼は、すでに次の高みへと向けられています。

\*\*\*

「本当にやりたいと思ったことは、どれだけ忙しくても時間を作れる」と海野さん。機会を待つだけは何も起こらないことを、ご自身の経験から語ってくださいました。何もしないでただ不平不満を口にするだけで、果たして何が変わるのか。逆境に置かれてもいい方向に考え、変えるた

めに行動する。最初は小さな一歩でも、それがいい結果を導き出す一番の近道なのかもしれません。

